

水晶が好きだった宮沢賢治(1)

京都薬科大学 名誉教授 桜井 弘

僕の目的とする仕事は宝石の人造です。・・・
黄水晶を黒水晶から作ったり、・・・
メノウに縞模様を入れたりしたいです。・・・

この文は、岩手県の花巻に生まれて23歳になった宮沢賢治(1896～1933年)(以下、賢治)が1919年2月に父政次郎に宛てて東京から送った長い手紙の一部を分かりやすく書き直したものです。黒水晶は紫水晶のことです。

賢治は、1918年3月に盛岡高等農林学校を卒業して研究生となり、地質調査など研究をしていましたが、年末に東京の日本女子大学4年生だった妹のトシが突然発熱し、入院したため、母とともに上京しトシの看病にあたりました。父には毎日トシの病状を詳しく手紙で伝えました。年が明けて、トシのスペイン風邪の病状が回復傾向となり、賢治は時間を見つけて東京の宝石商巡りをしました。実は、賢治は前年の6月ころ、近い将来は鉱物を扱う仕事に就きたいと父に伝えていたので、このような文を父に送ったのでした。一時は、相当に力を込めて鉱物業のことを語り、父に資金的援助を依頼していましたが、父はそれに同意しませんでした。トシは次第に回復して1919年3月に、母、叔母、賢治とともに花巻に帰りました。その後、賢治は鉱物業への夢を語ることはありませんでしたが、鉱物や宝石の名前を作品に積極的に取り入れました。

黄水晶はシトリンとよばれ、紫水晶(アメシスト)が地熱によって紫色から黄色に変色したものです(写真1)。自然のシトリンは非常に少なく貴重であるため、現在では、自然の反応に真似て、紫水晶に加熱処理をほどこして人工的に黄水晶が造られています。フランス語で黄色のレモンを意味する「シトロン」が名前の由来です。一方、アメシストの名は、古代ギリシア語のamethystos(酔わせない)を起源として、酔いを防ぐ効果があると信じられていたことに由来するそうです。賢治は、100年以上も前に、シトリンの人造法を知っていたのには、驚かされます。



写真1. 黄水晶(左)と紫水晶(右)(科学館展示より)

賢治は多数の詩や童話などの作品を残し、これらの中に40種ほどの鉱物や宝石の名前を用いて自然や自分の心のありかを表わしました。板谷栄城は、賢治が代表的な作品で用いた鉱物や宝石を取り上げています。それをまとめると表1となります。一番多いコハク(琥珀)は、天然樹脂の化石です。賢治が生まれた岩手県の久慈市では質が良いコハクが産出していたので、賢治はコハクに触れる機会が多く、親しみを抱いていたのではないのでしょうか。表1のコハク以外はすべて鉱物です。そのうちタンバク石(蛋白石)、メノウ(瑪瑙)とスイショウ(水晶)はす

表1. 宮沢賢治がよく用いた鉱物・宝石

順位	名称	組成(化学式)
1	コハク(琥珀)	天然樹脂の化石
2	オパール(タンパク石・蛋白石)	SiO ₂ ·nH ₂ O
	メノウ(アゲート・瑪瑙)	SiO ₂
3	コンゴウセキ(ダイヤモンド・金剛石)	C
4	スイショウ(水晶、クォーツ・石英)	SiO ₂
5	トルコイシ(ターコイズ)	CuAl ₆ (PO ₄) ₄ (OH) ₈ ·4H ₂ O
	ルビー(コランダム・鋼玉)	Al ₂ O ₃
6	ギョクズイ(カルセドニー・玉髄)	SiO ₂
	クジャクイシ(マラカイト・孔雀石)	Cu ₂ CO ₃ (OH) ₂
7	トパーズ(黄玉)	Al ₂ SiO ₄ (F, OH) ₂
8	ルリ(ラピスラズリ・青金石)	Na ₇ Ca(Al ₆ Si ₆ O ₂₄)(SO ₄)(S ₃)·H ₂ O
9	サファイア(青宝石)	Al ₂ O ₃
10	アマゾナイト(天河石)	KAlSi ₃ O ₈

(シリカ鉱物は、赤文字で示した)

べて二酸化ケイ素(SiO₂)、すなわち地殻をつくっている物質のひとつのシリカをおもな成分とする鉱物です。賢治は、13歳の中学1年生のときに、次の短歌を歌っています。

鬼越の山の麓の谷川に瑪瑙のかけらひろひ来りぬ

『短歌』明治四十二年四月より

幼少のころ「石っこ賢さん」と呼ばれた賢治の作品には、様々な鉱石や岩石が登場します。これらの鉱物はかつて賢治が学んだ盛岡高等農林学校、現在の岩手大学農学部附属農業教育資料館に収められていますが、賢治は、シリカ鉱物の代表である石英(クォーツ)を含む鉱物を好み、圧倒的に多く作品に用いていたことがわかります。

シリカ鉱物を、①単結晶クォーツ、②多結晶クォーツ、③非晶性シリカ鉱物の3種類に分けて、賢治が好んでいた水晶(石英)を含む鉱物や宝石名を含む代表的な作品のいくつかを紹介しましょう。

1. 単結晶クォーツ類

六角柱形の美しい自然の結晶で、特に無色透明な鉱物は水晶(ロッククリスタル)(写真2)や玻璃(ハリ)とよばれ、日頃なじみの深いものです。『銀河鉄道の夜』では、次のように使われています。

カムパネルラは、そのきれいな砂を一つまみ、^{てのひら}掌にひろげ、指でききしさせながら、夢のように云ってゐるのでした。「この砂はみんな水晶だ。中で小さな火が燃えてゐる。」「さうだ。」どこでぼくは、そんなことを習ったらうと思ひながら、ジョバンニもぼんやり答へてゐました。

『銀河鉄道の夜』七、北十字とプリオンシ海岸

光が当たった水晶を見ていると、本当に結晶の中で火が燃えているように思われます。鉱物の中に、エネルギーを感じているようです。

水晶は無色透明ですが、紫色や黄色をしている紫水晶(アメシスト)や黄水晶(シトリン)も自然界から発見されています。紫色の原因は、結晶中に入り込んだ3価の鉄イオンに光があたり4価の鉄イオンとなった時に可視光の中の黄色の光を吸収して、人の目には紫色に見えたと考えられています。最近では、アルミニウムイオンが混ざっていることも原因のひとつといわれています。賢治は、紫水晶や黄水晶を次のように使っています。

たうやくの葉は碧玉、そのつぼみは紫水晶の
美しいさきを持ってみました。

『十力の金剛石』

「たうやく」は当薬と書き、センブリという植物を乾燥したもので、民間薬として苦味健胃薬として用いられています。植物の葉、つぼみ、花を鉱物に置き換えるユニークな表現法を用いています。

すきとほつてうすらつめたく

シトリンの天と浅黄の山と

青々つづく稲葉の氈

岩手県のなかへ帰ってきた

『濁った光の澱の底』先駆形

やがて太陽は落ち、黄水晶の薄明穹も沈み、星が光りそめ、空は青靱い淵になりました。

「ピードリ、ピードリ。」と鳴いて、その星あかりの下を、まなづるの黒い影がかけて行きました。

『まなづるとダアリヤ』

これらの作品では、日没ころの黄金色に輝く空の風景をシトリンで表わし美しく描いています。薄明窮とは日没時に薄く光る空のことをさしています。(続く)

[引用文献は、最終回の最後にまとめて記載いたします。]

桜井 弘



写真2. 水晶(ロッククリスタル)
(山梨県甲府市産、筆者撮影)

KONICA MINOLTA

私たちは「宇宙」を
作っている会社です。

— プラネタリウム生誕100周年 —

最新の光学・デジタル プラネタリウム機器の開発・製造から、
独自の番組企画・制作・運営ノウハウに至るまで、
プラネタリウムという“スペース”の可能性を追求し続けてまいります。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

本社・東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3 TEL (03) 5985-1711
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 TEL (06) 6110-0570
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
URL: <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

画像：大阪市立科学館